

令和6年度第2回 岡崎市美術博物館協議会会議録

1 開催日時及び場所

令和7年2月7日（金）14：00～15：26

岡崎市美術博物館 1階会議室

2 出席委員（定数10名 1名欠席）

会 長	井上 瞳	（学識経験）		
	竹平 真仁	（学校教育）	長坂 博子	（学校教育）
	山本 秀樹	（社会教育）	太田 公典	（社会教育）
	林 羊歯代	（学識経験）	荒井 信貴	（学識経験）
	菅沼 和子	（市民公募）	三輪 哲也	（市民公募）

（欠席委員は、野田 光宏（社会教育・家庭教育）1名）

3 館長及び説明のため出席した事務局職員（6名）

美術博物館特任館長	榊原 悟	社会文化部長	加藤 健一郎
美術博物館長	大澤 一実	美術博物館管理係係長	鈴木 由香里
地域文化広場館長	亀井 実	美術館長	倉橋 浩二

4 会議の成立

事務局より、委員10名のうち9名が出席のため、岡崎市美術博物館管理規則第8条第2項の規定により、本日の会議は成立していることを報告した。

5 会議の内容

次第1 報告事項

（1）令和6年度展覧会開催状況について

議 長＝事務局から説明をお願いします。

事務局＝（令和6年度に実施した美術博物館、地域文化広場の展覧会について、入場者数、各種企画内容等を資料に沿って説明）

議 長＝ただ今の説明について、ご意見・ご質問はありますか。

委員A＝岡崎市の文化財や収蔵品には非常にユニークで素晴らしいものがあるが、私の周りでも知らない方が多いので、アピールしていくと良いと思う。

資料で、入場者数の最高と最低と小学生の数字を記入しているのは良いが、最高と最低で十倍以上のギャップがあり、それぞれのヒントになるので掘り下げていく必要があると思う。「わくわく鉄道博物館 2024」では、平日はプラレール、土日はジオラマに集中するようなので、仕掛け方次第でバランスがよくなると思う。それからプラレール広場は恐るべき人気だと思った。平日の午前中に行ったが、すでに駐車場からプラレール広場を目指している親子がおり、車のナンバーを見ると、市外からの来館が多く集客力があり、鉄道に関係なくプラレール広場は利用できると思った。「江戸東京博物館展」では、小学生がワークシートで勉強していた様子を見て、（このような教材の活用は）平日と週末の来場者のギャップを埋めるのに有効に生かせると思った。

事務局＝プラレール広場は、毎回利用の仕方を変えながら開催している。前回開催時は来場者が多すぎてクレームがあったので、平日と土日で利用方法を変えたり、車両貸出しを有料とし、代わりに持込も可能にするといったことを試みた。今後、今回のアンケートの内容も参考にしたい。

「江戸東京博物館展」のワークシートは、小学生向けに作ったが、大人の方にも楽しんでもらえたので、今後の展覧会にも生かしたい。

収蔵品は、常設展示室がなく、活用ができていないが、「江戸東京博物館展」では、入口の右手に収蔵品を展示するコーナーを設けることができた。今後の展覧会でもPRしていく必要があると思っている。

委員B＝「わくわく鉄道博物館 2024」で子どもたちがプラレールで遊べるのはとても良いと思うが、今回の展示は、新幹線の写真が並んでおり、最後の部屋は説明パネルだけだった。新幹線に興味を持った子どもたちに見せるなら、子どもに合わせてパネルを10センチでも低くすると良かった。展示高が全部大人の目線になっていたのだから、説明パネルも大人に読んでもらえばいいのか、子どもに読ませたいのか、誰に読ませるので、配置を考えると良いと思う。子ども向けの美術博物館なので、子どもに合わせた展示を意識するのがいいと感じた。

事務局＝確かに最後の部屋の展示は高めになっている。

委員B＝入口最初のパネルから全部高い。監視の方の話では、子どもたちが見上げながら一生懸命見ていたそうなので、子ども目線にして欲しいと思う。

議長＝文章の内容はどうか。

委員B＝最初のパネルはルビがふってあったが、最後のパネルにはなかった。子ども向けの展示だが、親子でうまく会話ができるような展示を意識することが大事かと思う。

議長＝これを機会に館でルールの整備するのも案ではないか。

一般に美術館等では、目線の150センチで合わせるが、浮世絵の館では145センチで、もう少し下げている館もあるので、今後検討する必要があると思う。

委員C＝「あそべる！昆虫ワールド」を孫と見たが、車好きで、虫が嫌いな孫もすご

く喜んでいました。夏休みということもあるが、入場者数をみると好評で、すべての部屋の展示に工夫が見られ、とても楽しめる展覧会だった。子ども対象の展示は、動かせたり触れたりする工夫が大事だと思った。

「QuizKnock と巡る江戸東京博物館展」は QuizKnock とのコラボがとても良かったと思う。特に若者に影響があるので、もっと活用できると良かった。

事務局＝QuizKnock は、開会前日にシビックセンターでイベントを開催し、とても好評であった。全国から来たファンの方が、翌日の展覧会初日にも多く来館してくれた。また、QuizKnock の山本さんが展覧会を鑑賞している動画を館内だけで上映することで、ファンの集客に努めた。最大限の活用ができたかわからないが、効果はあったと思っている。期間中は猛暑で、メディアでは不要不急の外出制限が言われたり、お盆休みには南海トラフ地震臨時情報の発表や、8月の終わりの台風10号の影響など様々な要因もあり、目標入場者数は達成できなかった。

議長＝入場者数の1割くらいが小中学生で、普段とくらべて若い方が多かったのか。事務局＝アンケートの結果では、10代が18%と一番多く20代が15%、60代が13%、50代が12%、20代、30代が11%で、家族連れ39%、県外16%だった。市外の小中学生も無料としたため、夏休み期間は若い方や、家族連れが多かった。

委員D＝子ども美術博物館で開催されている「安藤昇と森慎吾のやわらかいかたち」は、とてもいい展示で、NHKの教育テレビでドキュメンタリーが放送されたので全国で関心をもたれたのではないかと思う。今後作品は、どこで保管されるのか。

事務局＝美術館の所蔵資料なので、美術館で保管される。

委員D＝今後お二人の作品は、どういう形で展示し、活用される予定か。

事務局＝今回は、昨年度寄附していただいていたお披露目ということで展示しており、今後の予定は未定だが、展示や活用を検討していくことになると思う。

委員D＝例えば絵はがきやミニチュアがあったら欲しいと思った。商業的なことは考えたくないが、岡崎の財産なので、長期的に上手く活かしていけたらと思った。

「わくわく鉄道博物館2024」は、最後の展示で海外の特急列車の歴史が紹介されており、委員Bの意見には反するが、鉄道ファンでない自分がとても興味をもって楽しく観ることができた。

事務局＝「わくわく鉄道博物館2024」の最後の展示は大人向けになっており、お子さんが遊んでいる周りで親御さんがパネルを観ている光景が多く見られる。今後展示方法を考えたい。

次第2 議事

令和7年度開催予定の展覧会について

議長＝それでは議事の令和7年度開催予定の展覧会について、事務局からの説明をお願いします。

事務局＝（令和7年度開催の各展覧会について、開催予定期間、内容等を資料に沿って説明）

議 長＝ただ今の説明について、ご意見・ご質問はありますか。

今年度は委託が4本で特別展が1本だったが、来年度は「リトルアーティスト展」と「子どもたちのアール・ブリュット」以外は委託か。

事務局＝そのとおりです。

議 長＝学芸員が企画する展示はないのか。

事務局＝今年度、特別展で使用している展示室は、常設展を開催する予定である。常設展は学芸員が企画している。

議 長＝委員Dから話があったように、今年度の特別展示はとても良いので、今後も意義のある企画ができると良いと思う。

事務局＝今年度は、安藤昇さんと森慎吾さんの作品の寄附を受けて特別展を開催した。

今後機会があれば検討するが、現時点での開催予定はない。

委員D＝アール・ブリュット展で大きなカニの展示があった。どうやって作ったのか素朴な疑問があり、作品に学芸員のキャプションがあると良いと思った。

事務局＝今後検討したい。

議 長＝それでは、ご意見も尽きたようですのでお諮りします。令和7年度に開催予定の展覧会の事務を執り進めることについて、承認してよろしいでしょうか。

（全員承認）

議 長＝令和7年度開催予定の展覧会については、承認されました。先程多くの意見が出ましたが、事務局はただいまの意見を踏まえて、来年度予定されている展覧会をよりよいものにするために準備を進められるようお願いいたします。

次に、議事（2）の「令和8年度開催予定の展覧会計画について」事務局より説明をお願いします。

事務局＝（令和8年度開催予定の展覧会計画について、開催予定期間、内容等を資料に沿って説明）

議 長＝ただ今の説明について、ご意見・ご質問はありますか。

委員E＝アジア大会開催のため休館にするのはなぜか。

事務局＝中央総合公園が3競技の会場になっており、多くの観覧者が来ることが予想される。美術博物館やレストランの方の駐車場が準備できないため、本大会の期間は閉館を予定している。

委員E＝休館せずにアジア各国から訪れた方に観ていただけたらどうか。

事務局＝アジアパラ大会の期間は開館するが、本大会は多くの方の来場を想定しており、休館予定。今でも高校野球の決勝では駐車場が足りなくなる。

委員E＝集客しなければならぬときに閉館するのはもったいない。アジアの方々に無料で観てもらった方が良くと思う。

事務局＝アジア大会実行委員会とも協議中だが、開けておくメリットより、デメリットの方が大きいのではないかと考えている。

委員E＝東京オリンピックの際に、文化のオリンピックとして展示があったと聞いている。運営側の心配もわかるが、少しでも開館することができれば、大会を見に来た人が散歩しながら来てもらうことができるのではと思う。

「出光美術館名品展」は美術品になるので難しいとは思いますが「江戸東京博物館展」のような体験できるような工夫ができると良く思う。ワークシートも大変良かった。国島征二さんの作品もなかなかお目にかかる機会がないので、難しいとは思いますが、野外展示ができると面白いのではないかと。

委員B＝美術博物館でも作品を購入はしているのでは。

事務局＝亡くなってから作品を整理する中で、寄附していただいたり、購入した作品がある。太田委員Eの意見も参考にさせていただく。

委員E＝愛知県では、展示場に石製品は入れられない。野外展示はひとつの特徴になるので、あるといい。

委員F＝竜南中学校にも国島征二さんのモニュメントがある。調べてみると市内の学校にもいくつか作品があるので、紹介の仕方に工夫が必要だが、紹介してみるのはいかがでしょうか。

委員B＝豊橋美術館では中庭で常設を考えていたようだが、この周辺でも配置次第ではあるが、紹介があってもいいと思う。

事務局＝屋外に置いてある作品を館内へ持ち込むことはできないが、ご意見も参考検討したい。

委員G＝別の話になるが、美術館の冷暖房について、温度調節をもう少し柔軟に対応してほしい。

事務局＝季節の変わり目の時で、基準の温度に達していなかったためであるが、ご迷惑をおかけした。今後は対応するよう検討する。

委員H＝「あそべる！昆虫ワールド」は夏休み期間の開催でもあり、学校でも子どもたちの話題になっていたと感じた。「中山みどりフェルトアート展」では、かわいい犬や猫がチラシにふんだんに掲載されており、職員が気に入ってデスクに飾って心癒されていた。飾っておきたくなる、展覧会に行きたくなるタイトルやチラシは大事だと思った。展示もとても素晴らしかった。「わくわく鉄道博物館 2024」は皆さんの興味もいろいろだが、私はジオラマに見入っていた。皆さんがいろいろ楽しめる展示でよかったと思う。

議長＝関心の違いがあるが、いろんな層に訴えられる展示がこれからも開催できるといいと思う。

委員A＝アジア大会の議論はとても貴重な議論だと思う。確かに安心安全のため閉めるのは確実な方法だと思うが、機会を積極的に使う意味では、何らかの攻めがあってもいいと今日の議論の中で感じた。一般の方は入れないかもしれないが、岡崎市としてこの場を上手く使うことは検討してもいいと思った。

委員E＝アジア大会の観客を対象に、自分の国の応援に来た時に、美術博物館にも立ち寄ってもらえたらいいなと思っている。

委員D＝今の議論を聞いて思い出したが、2001年にカラヴァッジョ展があり、ローマのボルゲーゼ美術館がなぜ庭園美術館と岡崎市美術博物館を会場に選んだかという議論があったが、ここは環境が素晴らしいとのことだった。今日は時間があつたので池の周りを歩いてみた。今は工事中で困われているが、工事が終わればまた素晴らしくなった美術博物館を見てもらえらると思う。アジア大会中は周りを歩くことはできるのか。できなくても、この素晴らしい岡崎市美術博物館の存在をアジア大会で発信することができれば次につながるアピールの仕方もあるのではと感じた。

特任館長＝委員方の意見はその通りだと思う。今までも再三発言しているが、常設展がないことが美術博物館の欠点である。本来は常設展で地域の文化、歴史、美術を展示することができ、開館さえしていればお観せすることが可能だが、当館では現状での対応は無理なので、市で議論をして、例えば岡崎城の展示を見ていただくなど検討してもらいたいと思う。

議長＝ご意見が特にないようですので、ここでお諮りします。令和8年度開催予定の展覧会計画。を執り進めることについて、承認していただけますか。

(全員承認)

議長＝令和8年度開催予定の展覧会計画については、承認されました。事務局におきましては、先程までの意見を踏まえて、準備を進められるようお願いをいたします。予定の議事は終了しましたが、「3 その他」について、事務局から何かありますか。

事務局＝特にありません。

議長＝それでは本日の議事はすべて終了しました。

閉会あいさつ

特任館長＝本日は貴重な意見を頂戴しありがとうございます。いろいろなご意見を伺った中で、どの館にも当てはまるが、ルビをどこまでふるかは大きな問題だと感じている。来館者の立場で展示を考えていくのは当たり前のことだが、もう一度考えていきたい。三輪委員Aからの収蔵品の件について、収蔵品の魅力を発信するのは美術館・博物館の使命であり、一番力になるのは、その館が持っている資料になる

と思っている。持っている資料をいかに魅力的に展示するのが、学芸員の重要な使命でもある。令和8年度は美術博物館の開館30周年を迎えるので、30年間で収蔵したものをお見せしようではないかと企画を考えている。展示する場が十分ないので仕方がないと思うが、収蔵品の魅力を一番知らないのは岡崎市民である。日本有数のコレクションを岡崎市民は見たことがないので、こんなにすごいものがあるということを我々の方から発信する企画を考えていきたい。今後ともよろしく願いいたします。

事務局＝以上で令和6年度第2回岡崎市美術博物館協議会を終了させていただきます。
本日はありがとうございました。

—以上—